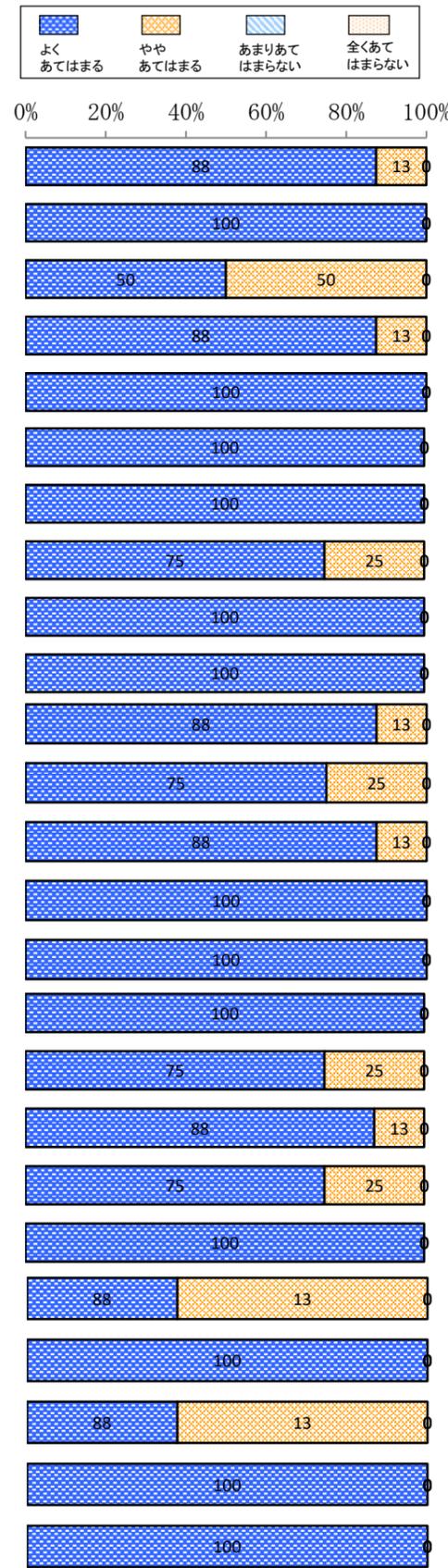


	評価項目			評価結果			
				A	B	C	D
学校全体の様子	1	教育目標・方針	児童・生徒や保護者等と共有できるように学校の教育目標を示し、方針を説明している。	7	1	0	0
	2	児童・生徒の様子	児童・生徒は、明るく素直で、生き生きとした楽しい学校生活を送っている。	8	0	0	0
	3	基本的生活習慣	児童・生徒の服装や通学態度、挨拶など基本的な生活習慣がしっかりしている。	4	4	0	0
	4	児童・生徒理解	児童・生徒の良さや努力しているところを見つけ、励まし、理解しながら一人一人の能力を伸ばすように努めている。	7	1	0	0
	5	健康・安全・安心	児童・生徒の健康や安全（確保・対策）に配慮するとともに、主体的に行動できる防災教育を充実している。	8	0	0	0
学力向上の取組	6	分かる授業	楽しく分かりやすい授業が実践されている。	8	0	0	0
	7	個に応じた指導	習熟度別学習等、児童・生徒一人一人の理解の程度に応じた学習指導が行われている。	8	0	0	0
	8	学習習慣	放課後の補充指導等を行うとともに、家庭での学習課題を提示する等、学習習慣の定着を図る工夫をしている。	6	2	0	0
	9	情報教育	タブレットPCなど、ICT機器を活用した教育を推進しながら、情報活用能力の育成に向けて取り組んでいる。	8	0	0	0
	10	学校図書館の活用	読書と学習に役立つ学校図書館として活用されている。	8	0	0	0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	自他を大切にし、偏見や差別を許さない豊かな人権感覚を育てる教育を行っている。	7	1	0	0
	12	道徳教育	生命を大切にする気持ちや他人を思いやる心、善悪の判断や規範意識を育てる等、道徳性をはぐむ教育を行っている。	6	2	0	0
	13	教育相談	教育相談を充実し、いじめや不登校を防止する等児童・生徒一人一人の居場所がある学校づくりに努めている。	7	1	0	0
	14	人間関係づくり	学校行事等の教育活動を工夫し、体験活動を充実させながら望ましい人間関係が築けるよう取り組んでいる。	8	0	0	0
	15	自治的な活動	学級活動や児童会・生徒会活動等で、児童・生徒が自発的・自治的に活動できるように工夫しながら指導している。	8	0	0	0
保護者・地域との連携	16	情報発信	学校便りや学年便り、学校ホームページ等で、保護者や地域の方に、学校の教育活動の様子を分かりやすく知らせている。	8	0	0	0
	17	相談への対応	児童・生徒や保護者からの連絡や相談を丁寧を受け止め、適切な対応をしている。	6	2	0	0
	18	学校への参加	学校行事等では、保護者や地域の方が参加しやすいように工夫している。	7	1	0	0
	19	地域との連携	地域の行事などに協力的で、連携を図っている。	6	2	0	0
	20	意見の反映	保護者や地域から寄せられた意見や要望を受け止め、学校運営と教育活動の改善に努めている。	8	0	0	0
各学校の特色ある教育	21	特色ある教育活動	英語の授業では、児童が英語に慣れ親しみ積極的に英語で自分の思いを伝えようとしたり、コミュニケーションを図ろうとしたりする態度を養っている。	7	1	0	0
	22	基礎・基本の定着	マスタータイム（計算・漢字等の習熟の時間）やあらかわ寺子屋を設け、一人一人が基礎・基本の力を身に付けている。	7	0	0	0
	23	自主的な休み時間の活用	朝休みや放課後、スーパー昼休みには、元気に体を動かしたり、図書室や学級のある本を読んだりしている。	7	1	0	0
	24	異学年交流	なかよし班や幼稚園交流など、異学年交流の活動の充実を図っている。	8	0	0	0
	25	外部人材の活用	外部人材を活用して、多彩な教育活動の充実を図っている。	8	0	0	0

(人数)



(%)

評価委員会からのコメント

児童の肯定群は昨年に比べて6%、保護者は4%増えている。子供たちが教育目標を基にした3つのキャラクターを意識して活動できていることは素晴らしい。学校へ行くことが苦にならないことが最も大切なことである。友達と生活し、共に学ぶことの面白さを十分に味わえる学校であってほしい。

児童・保護者共に肯定群の数値が高い。服装や挨拶などは家庭での配慮が必要不可欠なので、数値の高さは保護者の児童への気づきが増したと捉えるべきである。昨年度下がってしまった数値が、一昨年度よりも高くなっている。教師が児童の姿をしっかりと捉えていると保護者が認識している結果だと考える。

非常に高い数値は、防災教育に対する思いの表れである。また、毎月の避難訓練の意味を十分に理解させ、命を守る行動への指導を今後も日々継続してほしい。教師が、常日頃から分かりやすい授業を行ってくれている。そのことが、児童や保護者にも伝わり、高評価につながっているのだろう。

学力向上の取組で94%の児童が個に応じた指導を受けていると感じていることはとても良いことである。残りの6%の児童への配慮や支援をお願いしたい。学習習慣が定着、もしくは身に付き始め、学習することへの意欲が表れている結果だと考える。

一人一台のタブレットPCで、情報活用能力の育成に役立っていると考ええる。

蔵書の充実で、学習の幅が広がり、子供たちが更に自主的に活動することができている。本好きの児童が大勢いて、将来が楽しみである。

友達との関係は、相手を理解しようと努めることや、違いを尊重しながら関わり合う力が育つことで成り立っていきます。保護者への啓発を継続していただきたい。

対人関係の悩みは子供たちだけではない。人としての在り方を自覚し、より良く生きていくために、他者への理解を深めていってほしい。

例年、「よく分からない」と回答している児童や保護者が一定数いる。どの子にとっても居場所がある学校づくりに努め、学校からもアピールしてほしい。

学校行事を通して、より良い人間関係づくりができている。今後も楽しい行事を計画・実施してほしい。

子供たちが自発的・自治的に活動できるよう、教師のバックアップを引き続きお願いしたい。

学校からの情報は、子供たちには受け取る機会がないので、「よく分からない」の回答が多いのではないかと。広報活動を工夫するなど、発信に注力するのはどうか。迅速な対応が功を奏し、保護者や児童からの良い評価につながっていると考える。

感染症対策の緩和により、様々な行事が直接間近で見学できるようになったことや、参加しやすい日程を設定したことが高評価につながったのではないかと。子供たちが成長するにつれ、地域行事への参加が少なくなってきた。社明パレードや尾久っ子ワクワクまつりなど、地域と学校との連携を図ってもらいたい。寄せられた意見や要望への改善報告を、繰り返し周知していくことが大切である。

86%の児童が英語に親しみをもっている。英語でコミュニケーションが取れるようになるために、環境を整え、学習を積み重ねていってほしい。

19%の否定群である児童に対して、マスタータイムやあらかわ寺子屋を活用し、基礎・基本の定着への取組をさらに進めていただきたい。

休み時間を有効活用できる児童が多くいることは、学習とのメリハリが付き、より良い結果につながると考える。

異学年・異年齢交流で得られた経験や知識を、日常生活の中に反映させ、相手への気遣いや思いやる心を育てていってほしい。

外部人材がもっている知識や技術を活動の中で体験し、身に付けていってほしいと考える。